

絵入本ワークシヨップによせて

絵入本学会代表 服部 仁

「絵入本」のワークシヨップというものを、実践女子大学の佐藤悟教授たちが始められたのは、恐らく今から十数年前のことであつたように記憶しております。私は、第一回の仙台の大会に、参加できなかったことが残念であり、羨ましかつた覚えがございます。

その後、二〇〇六年に、当時の実践女子学園の高校(渋谷)で「絵入本のワークシヨップⅡ」があり、その後で皆で会食をした折に、浅野秀剛氏がおすすめてくださったことがきっかけとなり、二〇〇八年に愛媛県立美術館と千葉市美術館で「八犬伝の世界」展を開催することができました。その折の千葉市美術館の現学芸課長田辺昌子さんの御苦労は並大抵のものではございませんでした。未だに田辺さんにはいたく感謝をいたしております。浮世絵の「八犬伝」のその後は、これも偶然の成り行きから、本年六月から九月にかけて千葉県富津市の公益財団法人金谷美術館において、「アートで見る南総里見八犬伝」展を開催することができました。ひとえに金谷美術館シニアアドバイザー(前彫刻の森美術館館長)鈴木隆敏氏と金谷美術館代表理事鈴木祐士氏のおかげでありました。

この間に、二〇一一年八月には、念願の「歌川芳艶」展が、二〇一四年七月から九月にかけては、待望の「江戸妖怪大図鑑」展(七月妖怪、八月幽霊、九月妖術使い)が、共に太田記念美術館で開かれました。

そして本年七月には、やつとのことので妖術使いの代表作『児雷也豪傑譚』を出版(佐藤至子氏と共編)いたしました。

このように個人的には大満足の年月でありました。

私事のことばかりに筆を費やしてしまいました。「絵入本学会」と名称をあらためたこの会で、佐藤悟氏の筆舌に尽くしがたい御努力御献身があったことを、そして今後もあるであろうことを忘れてはならないと肝に銘ずべきでありましょう。

今回も、いろいろな題材、画家(絵師)等々、それぞれ多岐にわたった研究発表がされることに、大変大きな期待を抱いております。

最後になりましたが、このたびも、国文学研究資料館、一般社団法人美術フォーラム21、日仏会館フランス事務所、実践女子大学文芸資料研究所に共催していただきました。記して深く感謝申し上げます。まことに有難く存じます。

絵入本 ワークショップに期待すること

国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター副センター長 山本 和明

国文学研究資料館では現在大型プロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究構築計画」という学術フロンティア促進事業が進行しています。これはTMT計画(国立天文台)や、今年のノーベル物理学賞に輝いた梶田隆章先生が指揮するKAGRA計画(東大宇宙線研究所)などと同じ枠組みに属し、人文社会系ではじめて採択されたものです。このプロジェクトの一環として公募型共同研究を国文研が募集し、佐藤悟先生を代表とする「草双紙を中心とした近

世挿絵史の構築」という研究テーマが採択されました。本ワークショップは、その研究集会という位置づけの側面もあると伺っております。

このワークショップの運営等からは、多く範とすべきことがあります。国際化ということを念頭に国内外の若手研究者を招聘し、継続的なネットワークの構築を目指されている点。他分野の研究者の参加も容易なものとし、複合的な視座から検討していこうという姿勢。予稿集の発行や会費の取り扱いの点など種々に涉ります。関係者のご苦労はいかほどかと察せられますが、「国際共同研究ネットワーク」の構築を目指す当館プロジェクトでも導入すべき事例も多く、大変参考となります。特に、新たに草双紙を中心とした近世挿絵史を構築するという目標は、いわば新たな学問領域の構築を目指すものであるわけです。

大型プロジェクトでは多くの課題解決に向けて検討を行っています。その一つに検索機能の高度化がありますが、要するに三〇万点の古典籍の画像を、くずし字の読めない研究者がどのように活用しうるかということです。必要とする画像にたどり着くためにもしなければ、すべての画像を閲覧する必要があるわけで、ナンセンスな話です。画像にタグ(関連する情報を注釈付与すること)をつけることが必須であり、たとえば書誌情報もそうしたタグの一つであると考えられます。いまの一番の悩みの種は、挿絵です。どういったタグを挿絵に付与したらよいのか、一般名詞とともに画題などや見立てなどの情報も付与することで、思いもかけない「発見」が生まれてくるのではないか、などなど。挿絵の重要性については近年とみに高まっており、海外からの需要も高く、特に絵に対するタグの要望は情報科学系の研究者などからも多く寄せられています。挿絵にタグを付与するとすると、この分野の研究者のご意見を踏まえることが何よりも必要となりますし、最新の研究成果を反映していく必要があると考えます。そうした意味で、このワークショップでの活発なご議論を念じてやみませんし、その成果のできるだけ早い段階での公開(論

文化)をお願いするところです。そしてその自由な利活用をお認めいただければ幸いです。最初からすべてを網羅的にはできないまでも、研究者の方々の使えるデータベースを目指して、プロジェクトでは事業を推進してまいりますので、いつそうのご協力をお願いしご挨拶に代えたいと存じます。

「絵入本ワークショップⅧ」への共催について

一般社団法人美術フォーラム21刊行会理事 中谷 伸生

一般社団法人美術フォーラム21刊行会は、この度、「絵入本ワークショップⅧ」の開催にあたり、絵入本学会・国文学研究資料館・日仏会館フランス事務所・実践女子大学文芸資料研究所と共催することとなった。刊行会は、一九九九年に原田平作代表の下で美術雑誌『美術フォーラム21』創刊号を誕生させて以来、本年度で第三二号を刊行することになる。過去十年の間に、種々の美術雑誌が廃刊になるとともに、ポピュリズムに棹さす俗悪な美術雑誌が大手を振ってまかり通る風潮が定着しつつある中、そうした時代に警鐘を鳴らす役割を担って、『美術フォーラム21』は、学術的な硬派の内容を保持し続けてきた。また二〇一一年以降、刊行会は美術を愛好する一般市民の啓蒙活動を唱えて、以下のような美術史研究に関するシンポジウムを毎年開催している。

第一回「日本におけるフランスーフランシスム研究の構築に向けて―」(二〇一一年)

第二回「漫画とマンガ、そして芸術」（二〇一二年）

第三回「茶の湯―スキの芸術」（二〇一二年）

第四回「第五広告媒体論―ポスターの理論と歴史」（二〇一三年）

第五回「花鳥画の世界」（二〇一四年）

第六回「生活美術としての琳派」（二〇一五年）

これら六つのシンポジウムは、研究者を対象とするのみならず、一般市民をも対象としている。刊行会は、学術研究の成果を、美術史研究者はいうまでもなく、美術を愛好する市民に広げてゆく活動を行っており、「絵入本ワーク ショップⅧ」との共催については、新時代を迎えつつある学術研究の発展に寄与するため、ということになる。

美術フォーラム21刊行会の設立趣旨は、学術論文、資料紹介、現代美術紹介、書評、展覧会紹介など、美術に関する研究や調査の内容を雑誌『美術フォーラム21』に掲載し、美術史研究の深化と発展を支援することである。掲載対象の範囲は、建築、絵画、彫刻、工芸、写真、書などにわたる美術作品の研究を中心としながらも、美術の範囲を越えた視覚文化研究全体を視野に入れている。

また、刊行会は美術史研究の方法論を紹介する論文などにも力を入れてきた。さらに、国文学や美術史学の棲み分けを突破して、文字と図様の両方を自由に行き来する絵入本学会との共催は、刊行会の事業の趣旨とも重なって、大きな意義をもつ。今回の企画への参加は、刊行会の活動範囲をさらに幅広いものにする画期的な一歩となろう。

絵入本ワークショップⅧ開催にあたって

日仏会館・フランス日本研究センター所長 クリストフ・マルケ

私が二〇〇四年に仙台市立博物館で開催された第一回絵入本ワークショップに参加してからすでに十年以上たちました。このワークショップを機に絵入本学会ができ、私も役員として参加しています。

八回目となる今回の絵入本ワークショップⅧでは、実践女子大学と同じ渋谷区の恵比寿にある日仏会館フランス事務所も共催として名を連ねています。絵入本は多くの学問分野にわたるテーマです。今回の発表が日本の近世期に偏ったのは少し残念ですが、世界の多くの絵入本を研究する必要は誰もが認めるところだろうと思います。

また、幕末の開国以来、欧米に渡った絵入本コレクションも視野に入れて考えることが大切です。そのため多くの研究者、研究機関が手を取り合って研究を進めることは極めて重要なことです。

十年ほど前からフランス極東学院東京支部（於東洋文庫）、そして日仏会館で「江戸出版文化研究会」と名乗った小さな勉強会を定期的に開いて国際的に絵入本の調査、研究をしてみました。

絵入本ワークショップⅧご参加の皆様に、二〇一六年七月九日（土）日仏会館で開催される「天津絵国際シンポジウム」（仮題）にもご参加していただければ幸いです。俳諧、道歌、浄瑠璃など、文学や演劇とも関わりの深い江戸時代の天津絵を国際的な視点で再考する機会となれば幸甚です。絵入本学会を始め、多くの団体が協力・後援して下さることが決定しており、研究のネットワークを形成する一環になるものと考えています。シンポジウムの詳細な内容は追って皆様にお知らせ致します。



(為朝 大津絵 個人蔵)

絵入本ワークショップⅧ

実践女子大学文芸資料研究所・所長 横井 孝

前回の「絵入本ワークショップⅦ」(二〇一四年二月二〇日～二一日)は、国文学研究資料館肝煎りの共同研究(正しくは「平成二六年度古典籍共同研究事業センター共同研究」というのだそうですが)に採択された直後、急遽、同志

社大学の山田和人教授に会場をお引き受けいただき、盛会裡に終えることができました。絵入本学会の事務局として、安堵すると同時に、あらためて篤く御礼申し上げます。

今回は、早くから松本市の日本浮世絵博物館での開催が予告され、期待される向きもあつたのですが、残念ながら、今夏、これまた急に事情が生じ、本学で開催せざるを得なくなりました。同博物館での研究発表・見学等に期待を寄せていた方々に対し、申し訳ない次第です。

しかしながら、小ぢんまりしてユニークな形態である絵入本学会のフットワークの軽さを活かして、急場しのぎとはいえ、今回の開催に持ち込むことができました。研究発表者の方々、また参加の皆さまの篤い支援のたまものと感謝申し上げます。しかも、突然の会場の変更等ではありましたが、多くの方々に参加のお申し出を頂きました。これも感謝申し上げます。

これまでのワークショップにおける諸発表が、この分野の研究における最先端であることは今更申すまでもありませんが、その研究成果の記録として、本資料集も貴重な研究資源として遺す必要があるものと考え、「絵入本」という分野の意義を全うすべく、多くの図版を掲載することに努めました。口頭発表の際の一過性の消費財としてでなく、今後ともご活用願えれば幸いです。

今後も絵入本ワークショップを継続してまいります。皆さま方のさまざまな形でのご支援を頂きたく、お願い申し上げます。

絵入本ワークショップⅨにむけて

絵入本学会 事務局 佐藤 悟

文学と美術、従来の学問領域の境界で起きる事象を研究する場としての絵入本ワークショップも今回で八回を数えました。来年度も国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の一環である「草双紙を中心とした近世挿絵史の構築」の成果発表の場として、絵入本ワークショップⅦ・Ⅷに引き続き、Ⅸが開催される予定です。いくつか考えていることがありますので、皆さんのご意見をぜひ頂戴したいと思います。

一、絵入本ワークショップⅨにおいては「画題」についての発表が多いことを希っています。「画題」の研究は絵入本ワークショップの基本的な課題の一つです。挿絵に対する恣意的な解釈を排し、議論を進めるためのインフラのようなものです。すぐに実施することは困難かもしれませんが、将来は画題事典のようなものを我々で編纂できたらと夢想しています。そのためには基礎となる「画題」の研究を進めていかなければなりません。

二、今回の発表は一三本、司会も人を得て、一見盛況のように見えます。また発表要旨を見る限り、学術的にも高い水準を保つことができたと自負しています。さらに国文学研究資料館、日仏会館フランス事務所、美術フォーラム21などと、多くの組織とのネットワークも整備されてきました。この状態に安住してしまって、いいのでしょうか。今回の発表は日本の江戸期に偏った研究発表になってしまっています。このワークショップは中国・韓国・ヨーロッパ・アメリカなどの広い地域と古代から現代までの幅広い領域をカバーする筈でした。それによって産み出されるものも多いと考えます。

三、ワークショップを動かしてきた役員の高齢化が進んでいます。役員は選挙ではなく、自薦他薦でボランティアとして働いています。そろそろ若い人たちが役員に名乗りをあげてもよい時期になったのではと考えています。この領域はまだまだやるべき対象が多く残っています。そのためにも会の運営に一人でも多くの人に参加していただきたいと願っています。

絵入本学会役員

■運営委員

服部 仁(代表、同朋大学教授)

クリストフ・マルケ (フランス国立東洋言語文化研究院教授
日仏会館フランス事務所所長)

河野龍也(実践女子大学准教授)

河合眞澄(大阪府立大学教授)

佐藤 悟(実践女子大学教授)

田中 登(関西大学教授)

中谷伸生(関西大学教授)

山本 卓(関西大学教授)

山本登朗(関西大学教授)

横井 孝(実践女子大学教授)

ロバート・キャンベル(東京大学教授)

■編集委員

クリストフ・マルケ

服部 仁

山田和人(同志社大学教授)

山本 卓

横井 孝

■プロジェクトマネージャー

廣瀬千紗子(同志社女子大学教授)

絵入本ワークショップⅧプログラム

期間 平成二七年二月二日(土)一三日(日)

場所 実践女子大学 渋谷キャンパス二〇周年記念館七階七〇二教室

一二月二日(土)

総合司会…実践女子大学 佐藤悟

■開会の辞

■研究発表

施本における刑罰の絵―山本北山『むかしありしこと』について

司会…関西大学(院)

村上敬・愛知県立大学 三宅宏幸

ポストン美術館所蔵 竹田からくり絵尽し『国性爺合戦』「からくり九仙山操音曲」について 同志社大学

東京大学(院)

山本嘉孝

■休憩

■研究発表

司会…鶴見大学

神林尚子・実践女子大学 横井孝

赤本論

実践女子大学(非)

松原哲子

国立国会図書館蔵『ふくじん』について

木村八重子

■懇親会・総会Ⅰ

一二月一三日(日)

総合司会…実践女子大学 佐藤悟

■開会の辞

■研究発表

浮世絵に見る新吉原尾張出身者の活動

司会…東京大学(院)

山本嘉孝・名古屋外国語大学(非)

服部直子

版木の再利用―初代豊国の役者絵を中心として―

国際浮世絵学会会員

岩田和夫

■休憩

■研究発表

八代目市川團十郎を描いた浮世絵

司会…国際日本文化研究センター(非)

石上阿希・関西大学

山本卓

朝倉無声蒐集『観場画譜』をめぐる

東京大学名誉教授

延広真治

■昼食・総会Ⅱ

■研究発表

京伝作品と浮世絵―〈絵兄弟〉を例に―

司会…大妻女子大学

高木元・あべのハルカス美術館

北川博子

山東京伝と森島中良―京伝作品における異国意匠をてがかりに―

大阪大学(院)日本学術振興会特別研究員

有澤知世

京伝の飾り枠―『唐詩選画本』『唐土名勝図会』『唐土訓蒙図彙』利用―

同志社大学

神谷勝弘

■休憩

■研究発表

幕末絵本読本の「古代」

防衛大学校

井上泰至

シールドと『北斎写真画譜』

国文学研究資料館名誉教授

鈴木淳

■閉会の辞